平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ７４ ※記入不要	提案機関名	県央地域農業改良普及センター

要望問題　トマト品種における軟質果の発生過程と品種間差の解明

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

トマトのアミ果、軟質果は、乾燥や草勢を強くすることで発生が促進されることは既に知られているが、このような生理障害発生程度の品種による違いは、よく知られていない。当県で栽培の多い「ごほうび」「桃太郎ファイト」「桃太郎コルト」「ヨーク」「ろくさんまる」「マイロック」「レイヨウ」等について調査してほしい。現場指導にデータを活用したい。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：	生物資源部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名	（①、②、④の場合）

対応の内容等

施設トマト栽培におけるアミ果・軟質果の発生要因については、日照不足、多湿条件、高温、果実成熟期の土壌水分不足などのさまざまな環境条件が複合的に関与していることは分かっていますが、未だ原因は特定されていません。晴天時の早めの換気により施設内気温が上がりすぎないようにする、果実成熟期には適度な土壌水分を確保し、適切な肥培管理により樹勢を維持する、などが対策となりますが、品種との関係については全く知見がありません。そのため、この問題を解決するには、品種による差を含めて、どのような要因が関与しているのかを明らかにする必要があります。

そこで、まず、県内の普及センター等、関係機関と連携して現地におけるアミ果・軟質果の発生状況を品種と関連させて調査することにより発生要因を絞り、要因解析・再現試験については、その結果を受けて実施するかどうか検討させていただきます。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	